

名文に
学ぶ

「監修」

白坂洋一

筑波大学附属小学校
教諭

授業に役立つ

書く
コツ!

1

読書感想文



本の初めには「言葉集め」と「文をつくろう」、
最後には「読書感想文を書く準備をしよう!」があるよ。



上級編

書くコツ 5

書くコツ 4

書くコツ 3

書くコツ 2

書くコツ 1

書くコツ 0

索引 47
書いてみよう 46

『あるかしら書店』ヨシタケシンスケ 辻村深月さん 44
メッセージを伝える

読んでかわったことを伝える 38
●使ってみよう 『瞬の風になれ』佐藤多佳子 小泉今日子さん 42

●使ってみよう 『目に見えない微生物の世界』エレナ・ラッジカク/ダミアン・ラヴェルダン 河野彩訳 富永治史さん 36
自分に引き寄せて書く 32

●使ってみよう 『星の王子さま』サン・テグジュペリ/倉橋由美子訳 小川糸さん 30
心に残った言葉を引用する 24

●使ってみよう 『人間失格』太宰治 又吉直樹さん 22
書き出しで人の心をひきつける 18

●使ってみよう 『あやしの保健室』染谷果子 成田佳歩さん 16
心が動いた理由を書く 12

感想文の要素と基本の構成を知る! 6
感想文を書くための本選びのコツ! 8
感想文が書きやすくなる読書のコツ! 10

最初に読書感想文を書くための準備をするよ。
それから五つのコツをしようかい。
最後の上級編も見てね。



よ 読んでかわった ことを伝える

書くコツ 5

本を読んで、ものの見方や感じ方、考え方がそれまでとかわることがある。そのかわったことを、感想文で伝えよう。



小泉今日子さん
『小泉今日子書評集』より
プロフィール
1966年神奈川県生まれ。
1982年、歌手デビューし
数々のヒットを放つ。その後映
画や舞台で女優としても活動
し、2005年より10年間、読
売新聞の読書委員を務める。



本 一瞬の風になれ

佐藤多佳子

講談社

- 中学生までサッカーをしていた神谷新二は、高校で、親友の天才スプリンターの一人瀬連とともに陸上部に入部。春野台高校陸上部で過ごした3年間を、新二の視点でえがく、全3巻の長編小説。連の背中を追いかけ、成長した新二は仲間とともに、400メートルリレーでインターハイ出場をめざす。

*1 天性
天からさずかった性質、生まれつき。

読む前は、「走る気持ち良さなんて」感じたこともなかった作者が、読み終わったときには、「私の身体に感覚として残っていた」と、感じ方がかわったことを強調している。

*2 清々しい
さわやかで、気持ちがいい。

運動ぎらいな作者が、新二の成長を見て、自分もスポーツに打ちこんでいたら……と考えがかわったことを伝えている。

かわった

かわった

読み終えて感じた走る気持ちよさ

初め
『一瞬の風になれ』 佐藤多佳子
運動が嫌いな私にとって、走る気持ち良さなんて無縁のものだった。でも、この本を読み終えたとき、知らないはずの走ることの気持ち良さが私の身体に感覚として残っていた。

書き出し
読み終わって、いちばん強く感じたことから、文章をはじめている。

しょうかい①陸上部の主人公新二

中-1
主人公は高校生神谷新二。中学までサッカー少年だった新二が、親友の天才スプリンター「連」の影響を受け、高校の陸上部に入部する。*1天性の身体能力と、努力によって短距離選手になってゆく姿を追う*2清々しいこの青春小説は、三冊にわたる長編なのだが、決して長いとは感じさせない。陸上素人の新二の目線で書かれているため、初歩的な陸上知識が新二の心情と共に丁寧に伝わってくる。

短くしようかい
「神谷新二」の体言止めなど、読みやすくテンポのよい文章で、内容を短くまとめている。

しょうかい②陸上が新二を成長させる

中-2
最初のうちは、試合になると必ず腹痛を起こして何度かトイレに駆け込んでいた新二が心身共に成長してゆく姿には感動する。そして私の心に浮かび上がってくる少しの後悔。成長期に心から打ち込めるスポーツに出合っていたら、私の身体はもっと大きくなり、私の精神はもっと強く育ったのかもしれないなんて思ってしまった。友情、忍耐、責任、挫折、そして小さな恋心。新二の汗と涙の青春にはたくさん

効果的な具体例
情けない新二の具体的な姿を入れることで、成長する姿のイメージがふくらむ。

否定で強調
「長いとは感じさせない」と、否定の表現で強調している。

構成メモ

- ・初め
 - ・読み終えて感じた走る気持ちよさ
- ・中
 - ・しようかい①
 - ・陸上部の主人公新二
 - ・しようかい②
 - ・陸上が新二を成長させる
 - ・熱い青春を感じたりレーの場面
- ・終わり
 - ・自分に重ねる

ポイント

全体から場面へとしばっていく形になっているので、最後のリレーの場面と、新二と一体化している作者の感覚が、強く印象に残る。

小泉今日子さん
から感想文を書く
みなさんへの
メッセージ



この本をどんな人達に読んでもらいたいのか？
自分が書いた感想文を誰に読んでもらいたいのか？
そんなことを、書き始める前に想像してみると、書くことの要点が定まる気がします。

物語って、たった一人の誰かのために書かれているのだと私は感じています。

だって、物語と向き合う時にはいつも「本とわたし」は「一対一」の関係なんですもの。

だからあなたが書く文章も誰かと「一対一」の関係になるのだと思います。

家族、友達、好きな人、嫌いな人、遠い国の見知らぬ誰か、憧れのスター、

さて、あなたは誰に読んでもらいたいですか？

熱い青春を感じたりレーの場面

中-3

の思いが詰まっている。それはきっと将来の新二にとって大きな財産になるのだろう。

個人競技が多い陸上だが、四人で力を合わせて走る短距離リレーに一番熱い青春を感じた。バトンを待っている相手のために、これで死んでもかまわないくらいの勢いで走る。待っている方は前走者のその思いまでを受け取って、次走者のためにまた走る。アンカーを走る新二の目に映るもの、スタンドからの声援、風になる瞬間。頭の中が真っ白になって、自分の肉体の重みから解放され、ただただ走る。

自分に重ねる

終わり

自分以外の時間が止まる。そういう瞬間を演じているとき、歌っているとき、私も感じることもある。きっとあんな感じなのだろう。あの集中力。ゴールを指す新二の身体感覚が私のものになる。あー、走るって気持ち良い。

『小泉今日子書評集』（中央公論新社）より

チェック

主人公を身近に
物語は高校3年までだが、その先の将来の、新二の姿まで思い浮かべている。

チェック

表現の技術
「風になる」「真っ白になる」「肉体の重みから解放される」といった、たとえる表現をうまく取り入れている。

チェック

自分に重ねる
ゴールをめざす新二の感覚を、自分が演じたり、歌ったりしたときの体験に重ねて、感覚を共有している。

書評ってなに？



ほとんどの新聞や雑誌に書評のページがある。もともと「新刊書批評」「書籍批評」といった言葉が短くなって、「書評」になったといわれているよ。



「書評」は、本について、その内容をしようかいしたり、批評したりする文章。おもに新しく出版された本を対象に書かれ、新聞や雑誌などに掲載される。「こういう内容の本が出ます」と、多くの人に伝える役割ももっている。小泉今日子さんの書評は、読売新聞に掲載されたものだ。

読書感想文の「感想」は、「ものごとについて、心に感じたことや思ったこと」という意味だから、読んだ人の心の動きが中心になる。書評も読んだ人が自分の考えで評価するのでよく似ているが、書評では、「本のしようかい」も重要になる。

書くコツ 5

読んで かわったこと を伝える

読む前と読んだあと、自分のなかで いろんなことがかわったか。

小さなことでもいいし、すぐに実行 できないことでもいい。新しい見方や

考え方を知ったり、気持ちがかわつた

り、目標ができたりすることもあ

それは本がくれたプレゼントだ。ぜひ

感想文に書いて、みんなに伝えよう。

ここでは、立松和平文／伊勢英子

絵『海のいのち』を例に、読んで、ど

んなふうにかわったかを考えよう。



ポプラ社

わかる前と、 かわったあとのことを わかりやすく書こう。 それが伝われば、その本が どんな力をもっている かも伝わるね。



海のいのち

太一の父は、太一が幼いとき、巨大 なクエにもりをつきさした状態で、海 で死んでしまった。父と漁に出ること を夢見ていた太一は父が死んだ瀬で、 一人一本づり漁をする、与吉じいさに

弟子入り。じいさの思いや、漁のしか たを受けついで、漁師になる。じいさ が亡くなったあと、瀬にもぐった太一 は、巨大なクエに出会う。しかし太一 はクエにもりを打つことなく、その後 も、村いちばんの漁師でありつづけた。

立松和平文／伊勢英子 絵（ポプラ社）

かわった

1 読んで気づいた新しい見方・考え方

「千びきに二びきでいいんだ。千びきいるうち二びきをつれ ば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

与吉じいさのこの言葉にはおどろきました。

なぜならば、漁をする人たちは、みんな「大漁」をめざ

していると思っていたからです。

一本づりというつり方で、海と向き合う与吉じいさの言葉と、

もぐり漁で、いのちと向き合っていた太一のおとうの言葉「海

のめぐみだからなあ」は、つながっていると感じました。

昔から海に生きる人たちがもっている知恵や考え方を知り、

守って受けついでいければ、きっと、日本の「海のいのち」は

これからも守られていくと思いました。

本を読んで、今までとはちがうものの方を知ったり、知ら なかったことに興味がわくこともある。ここでは、与吉じいさ の言葉が発見だった。

かわった

3 読んで生まれた目標や好きなこと

太一は、自分のやりたいことをちゃんともっていて、そのために努力

しつづけることが、できる人だと思いました。おとうが亡くなってしまっ

ても、漁師になることは、あきらめませんでした。そして、与吉じいさ

に弟子入りすれば、じいさの思いや考えを受け入れる、心の大きさももっ

ています。だから、あのクエ、瀬の主にも会えなし、海のいのちを守る

ことができたのでしょう。そして、与吉じいさのやり方で、海のいのち

を守りながら、村いちばんの漁師でありつづけます。

私には、命を守る仕事につきたいという夢があります。そのためには、

努力しつづけることが大切だと、改めて思いました。すぐ、一日くらい

だいじょうぶと思ってしまう自分が、少しはずかしくなりました。毎

日、たんたんと努力しつづけること。大切なものを、守りつづけること。

太一が「海のいのち」と向き合うように、命と向き合う人になりたいと

思いました。

本を読んで、登場人物の行動を見習いたいと思ったり、 何か新しいことをはじめたりするときもある。新 しい目標や、しゅみ、好きなことができるかもしれない。

かわった

2 読んでかわった自分の気持ち

太一は、おとうを破った巨大なクエ、瀬の主に勝ちたいと

思って、おとうのもぐった海に行つたと思つていた。瀬の主が

あらわれ、しかもまったく動かさず、おだやかな目をしていてと

き、ぼくは、「チャンスだ、行け、太一」と、おうえんした。

でも、太一は瀬の主を殺さなかった。

「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」

どうして、おとうを破った瀬の主が、おとうなんだろう。

ぼくは、もう一つの言葉を思い出した。

「海に帰りましたか。与吉じいさ、心から感謝しております。」

与吉じいさも、おとうも、海に生きた人は、海に帰る。そし

て、海のいのちはつながっている。瀬の主も、その大きな海の

いのちの一部なんだ。だから、おとうなんだなと思つた。

本を読みながら、また読み終わって、気持ちが、読む前 とかわっていることがある。ここでは、物語を読みながら 自分の気持ちが、かわっていったことを書いているね。